

## 「風待ち区域の歴史的建造物」

宮城県気仙沼市風待ち区域(気仙沼内湾周辺)には、昭和4年の大火以降直ぐ建てられた昭和初期建築の建物が、表だけを直したものを含めると現在40棟を越え残っています。



建物群は、和風、洋風、土蔵が並び、庶民の町ならではの混在した面白さがあります。レトロな建物群は、これまでの気仙沼を支え続けてきた、カツオ漁を中心とした生業の歴史も垣間見える貴重な建物です。

また、風待ち区域を猛火で灰と化した昭和4年の大火後に一斉に建築され、年代がはっきり特定できる特徴を持っています。

調査により、この町の建物は一見他と変わらないようですが、実は、「変形な敷地に建つ変形な建物」が多い事が分ってきました。

これは、リアス式海岸特有の山裾が海に注ぐように迫る狭隘な土地を、湾を囲むように変形に地割りし、それを敷地として最大限に有効活用した結果ではないかと推測しています。海からの産物(カツオ、イワシなど)を、手早く分別・梱包し出荷するためには限りなく海に近い事が必要であったためであると考えられます。



気仙沼市図書館蔵

斜めに葺かれた瓦、軒に対して斜めに出る腕木、菱形の垂木、斜めの根太天井など実に手の込んだ建物仕上げの数々です。



極めつけは、間口4間半、奥の間口が1間、中に内蔵を抱えた斜め仕上げで末広がり平面を持つ店舗など、不整形な建物群の連続です。加えて、左官、板金の仕上げも精緻で美しいものが随所に残っています。



平成15年10月11日 調査

風待ち研究会

国登録有形文化財 未広がり平面

当会では、近隣の社寺建築(宮大工系)を得意とする気仙大工、地域の気仙沼大工、そして東京大工が、大火後一斉に腕を競うかのごとく建築した、それぞれの建物の特徴と仕上げの素晴らしさを調査資料として、A3 フルカラーで建物の特徴を現す写真、所見、平面図を記したパネルを作成し、一見変形とは気が付かない匠の技と、建物の魅力を周知して来ました。

風待ち区域の特徴は、歩けば20分程度で過ぎてしまう通りに、昭和初期の建物が建ち並び、その一棟一棟がこの町の歴史を伝える大きな参考書になっている事です。



風待ち建物マップ

その区域の建物を見ながらウォッチングしますと、2 時間では到底終わらないほどの見所が隠れています。

また、料亭ゾーン、旅館ゾーン、魚問屋ゾーン、商店ゾーンと建物の特徴により区域区分が出来、昭和初期の町並みの形成が推測できるのも特徴の一つです。

これら魅力的な建物は、青く澄んだ鏡のような内湾を囲むように建っており、振り向けば安波山の緑が昭和レトロの町並みを優しく包み、美しい景観を生み出しています。

観光化されていない街並みは、特段目を見張るものは有りませんが、住んでる人達のおもてなしの心は、一流旅館にも劣らないのではと自負するほど暖かいものです。



とりわけ、『あがらいんや』<sup>注1</sup>の一言は、庶民の町ならではのおもてなしの心の現われと思います。

住み手自らが、観光案内係のようなおもてなしが、建物の魅力を訪れた方々に一層強烈に印象付けている気がいたします。

<sup>注1</sup> 「家へ上がって、お茶飲のみませんか」の意

建物は、住み手が居てこそ、生きて私たちに多くのことを語りかけてくれる！を実感するのが、風待ち区域です。

普段静まり返って、黙して語らずの建物は、問いかけられて初めて口を開く……。

その掛け合いの面白さも、風待ち区域ならではの一つであると思います。。「地域の人と語り、ふれあい、日本の暮しの原風景に出会う」が、新しい観光の形になりつつある昨今、その素朴さがこの風待ち区域には有るのです。